

4 妙義寺 (萬歳山妙義寺) 曹洞宗



1282年(鎌倉)臨濟宗として創建。1394年(室町)益田氏13代秀兼(兼家)が曹洞宗に改め菩提寺とする。本尊は釈迦牟尼仏。幕末の石州口戦いでは長州軍の本陣。裏山の萬歳山に33ヶ所の観音霊場。構成文化財=七尾城跡妙義寺境内/木造十一面観音菩薩立像/妙義寺桜谷五輪塔(伝益田兼家墓)/妙義寺文書/妙義寺石橋
◎益田市立図書館「萬歳山妙義寺史」閲覧可

妙義寺益田

7 染羽天石勝神社



染羽を開拓した春日族が弁天池の背後の一枚岩(注連岩)を石神とした自然崇拝が起源。725年(奈良)天石勝命(開拓と勝利の神)を祭神として創建。931年(平安)別当勝達寺を建立。本殿は1583年(安土桃山)、拝殿(元は神楽殿)は1586年再建。明治の廃仏毀釈で勝達寺は廃寺。本尊の不動明王坐像は鎌倉極楽寺に現存、国重要文化財。構成文化財=染羽天石勝神社本殿/染羽天石勝神社神楽殿/勝達寺跡

染羽天石勝神社

10 益田川



中世では河口域の港と城下や山間部を結ぶ流通路。益田地区を潤す悠久の川。

5 暁音寺 (五更山暁音寺) 浄土宗



1577年(安土桃山)に創建。1601年(江戸)人々の心の拠り所として益田氏家老屋敷があった現在地に移転。本尊は阿彌陀如来。暁音寺前の道は七尾城に向かう軍事的に重要な場所だった事から鍵曲がりになっている。袴腰付鐘樓は江戸時代に建立。構成文化財=木造阿彌陀如来立像/暁音寺山門及び鐘樓/暁音寺前の鍵曲がり跡

暁音寺益田

8 三宅御土居跡



1370年(室町)益田氏11代兼見が築造。広さは1町(109m)×2町(218m)を意識しており、同規模の領主の館の2倍。益田氏の勢力の大きさがうかがえる。東西に高さ約5mの土塁が残っている。長靴を横に倒した形。益田氏がこの城館に230年居住。

三宅御土居跡

11 右田本店酒蔵



益田氏が須佐にいった後、町が衰退することを憂い宗味市を開いた右田宗味が始めたという蔵元。右田本店が所在する益田川沿いの地区は、中世に市が立った場所と考えられ、その名残りが上市、下市の地名に残る。

日本遺産 遺日産

6 泉光寺 (松龍山泉光寺) 浄土真宗本願寺派



1603年(江戸)もと益田氏家鬼村祐光が益田氏の帰益を願って益田氏の居館跡(三宅御土居跡)に創建。祐光が初代住職。本尊は阿彌陀如来。三宅御土居跡が国史跡に指定された後西方500mの現在地に移転。染羽天石勝神社の別当勝達寺の遺宝釈迦十六善神像を所蔵。構成文化財=絹本著色 釈迦十六善神像
◎益田市立図書館「松龍山泉光寺史」閲覧可

泉光寺益田

9 益田市立歴史民俗資料館



1921年(大正)に美濃郡役所として建設。その後警察署などを経て、1983年(昭和)歴史民俗資料館として開設。

12 中原家住宅




中世の城下の建物として最も空気感を残す。かつて「金冠白菊」を生産していた元蔵元。現在廃業も店舗がそのまま残る。

益田地区には12の日本遺産文化財がある

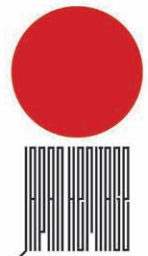
益田地区は領主益田氏や雪舟が築いた萬福寺、医光寺庭園など中世日本の多種多様な優れた一級品の遺産をまとめて伝える中心地区です。

- 日本遺産構成文化財
- 1 萬福寺 2 医光寺 3 七尾城跡/住吉神社 4 妙義寺 5 暁音寺 6 泉光寺 7 染羽天石勝神社 8 三宅御土居跡 9 益田市立歴史民俗資料館 10 益田川 11 右田本店酒蔵 12 中原家住宅





中世を旅する物語
益田 MASUDA



日本遺産
って何？

地域の歴史的魅力や特色を通じてわが国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの。地域の活性化を図ることを目的としています。

中世益田の歴史が日本の文化・伝統を語る物語として認められたこととなります。

1 萬福寺 (阿彌陀坐像・萬福山・浄光院) 時宗



萬福寺庭園写真(一社) 益田市観光協会

1374年(南北朝)益田氏11代兼見が益田川河口付近にあった平安時代に建立された安福寺を移転創建。本尊は阿彌陀如来。1479年(戦国)に画聖雪舟等楊によって造られた庭園は池泉鑑賞式。須弥山世界(仏教を象徴した石庭。



◀本堂の柱に残る大村益次郎撃する長弓の鉄釘の弾痕

構成文化財=萬福寺本堂附 棟札7枚/萬福寺庭園/絹本着色二河白道図/書院襖絵/木造阿彌陀如来立像/流仏三体像/木造阿彌陀如来坐像/益田兼見像/萬福寺文書/華南三彩壺/萬福寺推山墓地五輪塔(伝益田兼見墓)
◎益田市立図書館「萬福寺誌」貸出可

萬福寺益田



2 医光寺 (龍巖山醫光禪寺) 臨濟宗東福寺派



医光寺庭園写真(一社) 益田市観光協会

1363年(南北朝)創建の今よりやや西方にあった崇観寺が前身。益田氏17代宗兼が現在地に医光寺建立。本尊は薬師如来。雪舟は5代住職。雪舟の築いた庭園は池泉鑑賞式の鶴亀を主体とした武家様式。



雪舟は東光寺(大喜庵)で亡くなりこの地で火葬。雪舟灰塚▶

構成文化財=医光寺庭園/医光寺総門/医光寺中門/木造釈迦如来坐像/木造薬師如来坐像/木造弘法大師坐像/木造伝龍門土源坐像/益田宗兼像/山水図/崇観寺跡
◎益田市立図書館「石見瀧蔵山医光寺史」貸出可

医光寺益田



雪舟等楊
せつしゅうとうよう

1420年(室町)備中国(岡山県)赤浜生れ。幼時宝福寺で涙でねずみを描いた話は有名。1469年(戦国)遣明船で明に渡る。帰国後1479年益田氏15代兼見に呼ばれて益田を訪問。万福寺、崇観寺(医光寺)に庭園を築く。晩年益田を再訪し東光寺(大喜庵)に入山。83歳でこの地で生涯を終えた(一説には87歳)。1955年ユネスコ国際会議で雪舟さんは世界十大文化人に選ばれている。
※国指定の雪舟の庭園は全国に6ヶ所しかなく、その内の2ヶ所が益田地区にある。凄い!



益田地区には日本遺産を含めて七つの神社と七つの寺院があります。数えてみましょう。御朱印は萬福寺、医光寺、染羽天石勝神社、机崎神社、又御城印もあります。
※国指定の雪舟の庭園は全国に6ヶ所しかなく、その内の2ヶ所が益田地区にある。凄い!
御朱印=初穂料は御朱印300円、御城印800円

日本全国にみんなで自慢しよう!

A・D 医光寺・萬福寺の庭園
雪舟の気持になり写生大会。僕なら石をこうしたい、私なら木をこうするなど各人が新しい雪舟庭園を描いてみる。作品展示会など。

B 染羽天石勝神社注連岩
とてつもなく大きい神秘的な一枚岩の前に立って祈ってみよう。昔は注連縄が飾ってあった。あなたの願いが叶うかも。

C 堀川橋近くの土手
益田川を挟んでV字の山並が七尾城への入口。医光寺の総門が大手門。武士が馬に乗って駆け上がる様子を想像してみよう。

D 萬福寺本堂前広場
浜田藩と長州藩に分かれてチャンバラで「石州口の戦い」を再現。結果によっては近代日本の夜明けが来ないかも。もし歴史が変わたらならんぞ考えてみよう。なぜ益田藩はいないの?

E 三宅御土居跡
ここに来るといつも迎えてくれるのは、どこまでも広がる青い空と広大な敷地。時折トンビが巡回しながら見下ろしている。それに呼応して背伸びする。中世に生きた人々も同じ様な事をしたのだろうか。

F 泉光寺山門の龍
行こうやあ医光寺、参ろうやあ萬福寺、ええもんあげよう泉光寺の門。移動時風雲急を告げ一段と龍の表情が恐ろしく。参拝して睨み合いを。

G 眺音寺前鎌曲り
七尾城跡に向かって当時を想像してみると、城への入口が見えにくく道幅も狭く防衛面でもとても重要だった。赤線部分が鎌曲り跡。石畳の色が少し違う。

H 妙義寺前の石橋
石橋は中国雲山清涼山にある石橋を模したものだ。橋の手前は現世で向こうは仏の世界。ご利用を願って石橋を渡って参拝してみよう。

I 七尾城本丸跡
本丸跡に立って眺め益田の殿様になりきって中世益田の町並みを想像しながら城下を見渡す。遠く日本海を望んで朝鮮半島、中国や東南アジアと盛んに交易した海洋領主としてニマリと悦に浸る。

3 七尾城跡/住吉神社

七尾城と城下の想像図(左)と小倉川(元太館) 益田市教育委員会

壇ノ浦の戦(平安)で手柄をたて源頼朝(鎌倉幕府)より石見のほとんどの領地を授かる。1193年(鎌倉)益田氏4代兼高が築城。全長600mに及ぶY字状の尾根全体を要塞化。益田氏400年にわたり本拠とした。本丸跡から城下を見渡せる。
住吉神社は妙義寺文書によると、1576年(安土桃山)に妙義寺境内に建立。江戸時代に七尾山に移る。

七尾城跡益田

住吉神社益田

日本遺産を体感できるこの場所に立ってみよう!